

盗難防止の考え方

岡山市立香和中学校 2年 岡田 あかり



「盗難ってどうやったら防げると思う。」と私はある日、親に質問された。私は「財布や高価な物を見えにくい場所に隠したらいいんじゃない。」と言った。しかし親は「それだけじゃ、盗難を完全に防ぐことはできないよ。」と言った。

そこで私は、自分の考えだけでは何が悪かったのか、よりよい盗難防止策のためには何をしたらいいのかを考えてみることにした。

まず、視点を変えて「盗難をする人はどんな考えを持っているのだろう。」ということ想像してみた。まず、盗難をすることを目的にしている、常に隙がある人や物はないかを探している人。また、出来心で盗難を犯してしまう人。この二つのタイプがいるのではないかと考えた。

どちらのタイプも隙がある人や物を見ると盗難を犯してしまう気持ちが芽生えてしまうということが共通している。

それでは次に、どうすれば隙がない状況を作ることができるかについて考えてみた。

当たり前のことだが、物を盗りたくなる状況は、目の前に盗める物があるということである。

しかし、もしかしたら私にとっては盗む価値のない物でも犯罪者にとっては「盗りたくなる気持ち」を芽生えさせる状況を作っているのかもしれない。

私は、両親と外出する際、車から離れる時は座席に上着やバックを置かないようにと言われていたことを思い出した。いつも面倒なのになぜわざわざトランクへ入れておくのだろうと思っていた。

だが改めて、盗難を犯す人の気持ちを考えると、私たちの上着やバックですら中に財布が入っているように見えるのかもしれない。私たちは貴重品だと思っていない物でも「盗りたくなる気持ち」を作ってしまうのだと気付いた。

そして親に言われた「貴重品を隠すだけでは盗難を完全に防ぐことはできない。」という言葉に納得させられた。

この考えを基にすると、ただ鍵を掛けるといった当たり前のことから一歩踏み込んで「盗難を犯す気にさせない環境作り」が重要だと思う。例えば雨戸を毎日閉めてガラスを割られないようにする、玄関や通りから死角になる位置にはライトを付けるといったことが挙げられる。

ただ、環境作りは個人で行えることに限界がある。やはり地域みんなでの取り組みが必要だと思う。

私の家の周りのはのんびりした環境で、道や川にゴミが落ちていない。また、登下校等の際には知らない人でも挨拶してくれる。

私はこのような環境が当たり前だと思っていたが、外出先で汚れた道路や川を見かけたり、人が多い街中では全く挨拶もせず、隣に誰が住んでいるのかも知らない所もあったりすると聞いて驚かされた。

自分が犯罪者だとしたら、きれいな街と汚れた街、住民が声を掛け合っている街と全く人の交流の無い街、どちらが盗難を犯したくなるかを考えると、後者の方であると思う。

私たちは、この整った環境を当り前に思ってしまうがちだが、地域の人が努力をしてこそ成り立っているのだと思う。

町内の行事を見ると、川や道路の一斉清掃を行い、ゴミを捨てさせない環境作り、子どもたちや高齢者への声掛けや地域の防犯パトロールなど、地域ぐるみで犯罪を寄せ付けない環境作りやアピールが行われているのだと気付いた。

また、一見防犯には全く関係ないように見える夏祭りや、幼稚園から大人まで参加する運動会などの地域行事も「大人が子どもを見守る行事」として、地域の子どもたちが非行に走ることや犯罪被害に遭うことを未然に防いでいるように思う。

私はまだ遭ったことはないが、盗難をはじめ様々な犯罪に巻き込まれる可能性はゼロではない。両親のように「どんな状況で犯罪は起きるのか。そして自分がその状況に置かれていないか、犯罪に巻き込まれないようには今どのように行動すればいいのか」を常に意識して行動したいと思う。